

第4章

歴史文化資源の保存・活用に関する現状・課題

1. 調査研究に関する現状・課題

1-1 調査研究の現状

(1) 泉佐野市における歴史文化資源に関する調査

- ・「泉佐野市内文化財総合的把握調査」は、これまで有形文化財調査が主となって進められてきたため、無形文化財や民俗文化財、保存技術や生活文化、景観、自然環境などの実態把握は遅れた状況となっている。また、把握調査が行われた美術工芸品についても再度調査の余地がある。
- ・町場としての建造物群や天然記念物、景観分野での掘り起こしや価値評価が進んでいない。
- ・市内遺跡の調査は継続的に実施しているが、重要遺跡の調査は十分に行われていない。
- ・泉佐野市の歴史文化資源を統括的に整理されているデータベースは現在ない。

1-2 調査研究の課題

(1) 歴史文化資源の調査・研究の不足

(さらなる歴史文化資源の発見)

- ・生活様式の変化や過疎化などにより、無形文化財や民俗文化財、保存技術、生活文化（食文化など）などの歴史文化資源の消失が早まることが考えられるため、地域住民からの聞き取り調査（ワークショップ形式も含む）及び地域に残る古文書調査などを早急に進め、新たな歴史文化資源の発見や未指定文化財の価値解明、状態把握を目的とした詳細調査、記録保存を実施することが求められる。

(指定等を目指した文化財調査の実施)

- ・指定等文化財の候補となる文化財の価値評価を進めることが求められる。特に、佐野町場における歴史的建造物の価値評価に関する調査が求められる。

(発掘調査の実施)

- ・埋蔵文化財については、保存を目的とした詳細調査の推進を図り、重要な遺跡等の把握や保存に向けた資料の収集を図ることが求められる。

(歴史文化資源に関する調査結果の整理)

- ・泉佐野市にある歴史文化資源を広く知ってもらうために、既存の調査成果を整理し、泉佐野市にある歴史文化資源を統括的に整理されているデータベースを構築、公開することが求められる。

2. 保存・継承に関する現状・課題

2-1 保存・継承の現状

(1) 指定等文化財の保存管理

- ・指定等文化財は、文化財保護法及び文化財保護条例に基づき、概ね適切に保存管理されているが、一部に保存状況や管理状況が把握しきれていないものもある。
- ・風水害による蟻通神社絵馬殿の屋根修繕など、指定等文化財の約3割において修理・修繕の必要な破損箇所があり、早急な対応が必要な指定等文化財には建造物が多い。
- ・一部の指定等文化財において、破損等はしていないが劣化の進んでいるものがある。
- ・指定等文化財において、引き続き適切に維持管理するとした所有者が61%、日常管理はするが修復等は市に任せたいとする所有者が30%で、ほとんどが基本の維持管理を所有者で行いたいとしている。
- ・指定等文化財の所有者から維持管理や継承にあたって修理・修繕や管理等に係る財政的支援を求める声が多くあがっている。

(2) 未指定文化財の保存管理

- ・未指定文化財を後世に継承するための制度設計や取組は十分に行われていない。
- ・未指定文化財が災害等により毀損した際の対応が明確に定められていない。

(3) 歴史文化資源の防犯・防災対策

- ・市内において盗難被害のあった歴史文化資源もある中、一部の指定等文化財において防犯対策が十分に行われていないものがある。
- ・指定等文化財における防犯・防災対策として、巡回・監視が最も多く、次いで出入り口の侵入防止措置の実施、管理台帳の作成、防火機器の設置となっている。
- ・大型台風や南海トラフ大震災、火災等による文化財の被災が想定される中、一部の指定等文化財において防災対策が十分に行われていないものがあり、防災上の体制構築や設備整備、訓練の実施が十分に行われていない。
- ・災害発生後における応急措置や復旧対応の手法や連絡窓口等が明確に定まっていない。

(4) 祭礼・郷土文化の継承

- ・地域の歴史文化資源を活用した集客・交流として「佐野くどき」の実演披露や、檜井さんや踊り継承事業、和太鼓継承事業、郷土芸能による地域活性化促進事業（郷土芸能のつどい）を実施している。
- ・少子高齢化や過疎化が進んでいる中、祭礼等の民俗文化財の担い手の育成など泉佐野市における歴史文化、風習を後世に継承するための取組みが現在、着実に実施されているが、担い手不足が懸念される。

(5) 保存・継承に関する人材

- ・泉佐野市の歴史文化資源の所有者や管理者が多岐にわたるなか、人口減少や少子高齢化により管理体制の弱体化が進むことが想定される。

- ・未指定文化財を含む歴史文化資源を適切に保存・活用するための体制整備や人材育成は十分に行われていない。

2-2 保存・継承の課題

(1) 歴史文化資源の損失・損傷・劣化の危機

(指定等文化財の適切な保存管理)

- ・指定等文化財を良好な状態で保存管理していくためには、引き続き日常的な維持管理による予防対策と毀損の早期発見に努めるとともに、周辺環境の保全・整備を進めることが求められる。
- ・指定等文化財の毀損状況を把握し、修理・修繕の必要な指定等文化財については早急に対応することが必要である。また、劣化が進んでいる指定等文化財についても、修理・修繕を進めていくことが求められる。
- ・史跡日根荘遺跡及び重要文化的景観日根荘大木の農村景観以外の指定等文化財について、計画的な保存・活用を図るために、保存活用計画の策定を進めることが求められる。
- ・指定等文化財の所有者との連絡会議等を実施していく必要がある。

(未指定文化財を含む歴史文化資源の保存管理の推進)

- ・無形文化財や民俗文化財等の未指定文化財を後世に継承するために泉佐野市独自の歴史文化資源の登録・認定制度を制定し、未指定文化財の適切な保存・活用を図ることが求められる。
- ・主に指定等文化財を対象として、適切に保存管理されているかを確認するために、保存管理状況の定期的な見回りを行うことが求められる。また、災害等による毀損を発見した場合の報告などの対応を定めることが求められる。

(防犯・防災対策の推進)

- ・歴史文化資源の盗難や人的毀損などの被害にあわないために、防犯施設の整備や防犯体制の構築が求められる。
- ・火災や震災、風水害など、それぞれの災害に対応した設備整備や体制構築などの防災対策を推進することが求められる。
- ・災害発生時の対応を円滑に進め、歴史文化資源の被災を最小限に抑えるために、災害発生時の初動となる応急措置や復旧対応の手法や連絡窓口などを明確に定めることが求められる。

(祭礼・郷土文化の継承)

- ・少子高齢化や過疎化、ライフスタイルや価値観の変化などによって、泉佐野市において育まれてきた歴史文化や風習などが途絶えてしまう可能性があるため、祭礼等の民俗文化財の担い手の育成や郷土文化の継承事業の推進が求められる。

(2) 歴史文化資源の保存活用に係る資金の不足

(財政的支援の展開)

- ・歴史文化資源の保存・活用を推進するため、民間事業者による活用の促進や、市民からの寄付を促す仕組みづくり、クラウドファンディングによる資金調達等、多様な仕組みづくりが求められる。
- ・様々な社会情勢を的確に把握し、国・府の補助制度を有効に活用できるように所有者・市が対策を講じていくことが求められる。

(3) 保存・継承に関する人材の減少

(保存・継承に関する人材育成の推進)

- ・歴史文化資源を適切に保存・活用するために、歴史文化資源を継承するうえで必要となる技術をもつ人や歴史文化資源の保存・活用を行っている団体等の支援、研修等による文化財の保存技術を持つ人材の育成が求められる。
- ・未指定の歴史文化資源を後世に継承するためには、地域の人が地域の歴史文化資源を継承していくという意識を持ち、地域が主体となって保存・活用を進めていくことが求められる。

3. 公開・活用に関する現状・課題

3-1 公開・活用の現状

(1) 歴史文化資源の公開・見学

- ・ほとんどの指定等文化財において常時公開や定期的な公開が行われているが、一部の指定等文化財には非公開のものがある。
- ・公開を検討していない理由として、修理の必要性や損傷・劣化の危惧、防犯上の問題、人手不足といった意見があげられている。
- ・公開・活用における問題点として、歴史文化資源の損傷・劣化への不安が最も多く、特に美術工芸品において多い。
- ・公開の周知の方法が定まっていない。
- ・多様な公開・活用方法の一つとして、ユニークメニューの実施が検討されている。
- ・泉佐野市の歴史・文化を展示、公開する施設として設立された歴史館いずみさのには、多くの歴史文化資源が所蔵されており、常設展示や企画展等を行うことで、泉佐野市の歴史文化の普及啓発に努めている。
- ・活用事業者から歴史文化資源を活用するにあたって支障となっていることとして、トイレの整備や交通アクセス上の課題が多く指摘されている。
- ・説明板や案内板の劣化が進んでいる。また、関連文化財群（※P86において記載）として歴史文化資源を結び付けるストーリーを紹介する説明板の整備が進んでいない。
- ・史跡や文化的景観などは面的に広がっており、現地において空間的な位置関係等を理解しにくい。

(2) 教育的活用

- ・泉佐野市内の小中学校において、泉佐野市の歴史文化を伝える郷土教育が展開されている。

(3) 普及啓発・情報発信

- ・泉佐野市の歴史文化に関するシンポジウムや講演会等は実施されているが、自分たちの地域にある歴史文化資源を知らない人が多々見受けられる。
- ・歴史館いずみさのでの展示等とあわせて、市役所や関西空港、大阪芸術大学における史跡日根荘遺跡のパネル展示等を実施するなど、積極的な情報発信に取り組んでいる。

第4章 歴史文化資源の保存・活用に関する現状・課題

- ・指定等文化財所有者から、所有する歴史文化資源を活用するうえで取り組みたいこととして、関心を持つ人を増やすためのPRや講座、音楽会などのイベントの開催といった意見があげられている。
- ・インバウンドに対応した歴史文化資源の活用や情報発信が十分に行われていない。
- ・活用事業者から歴史文化資源を活用するにあたって支障となっていることとして、歴史文化に関する知識不足や広報発信ツールの不足といった意見が半数以上あげられている。また、歴史文化資源を活用するにあたってあるとよいと思われる支援やツールとして、泉佐野市の歴史が分かるガイドブックやマップの発行が多くあげられている。

(4) 観光振興・産業振興

- ・活用事業者が現在行っている歴史文化資源を活用した取り組みとして、イベントの実施や町歩き、観光コースへの組み入れ、体験メニューの実施、食事メニューの開発などがあげられている。今後行いたい取り組みとしては、ユニークメニューの実証や産業観光の実施など、インバウンドを含む観光振興や産業振興等と関連した事業があげられている。
- ・活用事業者へのアンケートの対象者が実施する指定等文化財における公開以外の活用は、観光コースへの組み入れが最も多い。
- ・活用事業者へのアンケートにおいて、すべての回答者が歴史文化資源を活用したい意向を示している。活用したい資源としては、「(犬鳴山温泉、農林漁業、タオル産業、郷土料理など) 佐野の歴史文化の中で育まれてきた地域資源」が最も多く、次いで建造物、名勝、文化的景観となっている。
- ・活用事業者が活用したいと思うストーリーは、観光資源としての可能性や町歩きのしやすさ等の理由により、「茅葺海」と「佐野町場」～海が育む職能・伝統～が最も多い。
- ・犬鳴山やタオル産業などの歴史文化資源が泉佐野市の観光資源として活用されているが、歴史文化資源を活かした観光振興や産業振興は十分に行われていない。
- ・歴史文化資源の価値が認知されておらず、地域や観光部局に活かされてない。
- ・活用事業者から歴史文化資源を活用するにあたってあるとよいと思われる支援やツールとして、財政的支援が最も多く、歴史文化資源の活用に関する相談窓口の設置を求める意見も半数を超えている。

(5) 公開・活用に関する人材

- ・泉佐野市の歴史文化資源の所有者や管理者が多様にわたるなか、人口減少や少子高齢化により管理体制の弱体化が進むことが想定される。(再掲)
- ・未指定文化財を含む歴史文化資源を適切に保存・活用するための体制整備や人材育成は十分に行われていない。(再掲)
- ・指定等文化財において既に行われている連携事業には、校外学習での見学や見学コースへの組み入れ、祭りへの参加、農業体験などがあげられている。
- ・指定等文化財所有者のほぼ半数が連携事業を既に行っている。連携先は地域住民が約7割と最も多く、次いで小・中学校となっている。
- ・指定等文化財所有者が今後連携したい相手としては、地域住民が約7割と最も多く、小・中学校も約6割と多い。既に行っている連携事業と比べて、大学と連携したいと考える所有者が多くなっている。

3-2 公開・活用の課題

(1) 不十分な公開・見学の機会・環境

(公開、見学の機会の創出)

- ・歴史文化資源の所有者との調整を図りながら、指定等文化財を主として、地域住民を含め一般公開を進めることが求められる。また、これまで未公開であった歴史文化資源については、確実な保存のための措置を図りながら、積極的な公開を図ることが求められる。
- ・効果的な保存・活用を進めるため、レプリカの展示やユニークベニューの実施、SNS を利用した公開、AR・VR による先端技術による公開など多様な手法による公開が求められる。
- ・歴史館いずみさのや他の多様な拠点施設等において、所蔵している歴史文化資源に限らず、広く泉佐野市の歴史文化資源の展示公開に努め、積極的な普及啓発に取り組むことが求められる。

(見学環境の整備)

- ・歴史文化資源を快適に見学してもらうために、トイレ等の休養便益施設の整備が求められる。
- ・歴史文化資源の拠点となる地点においては、歴史文化資源の公開や説明を担うガイダンス施設の整備について検討することが求められる。
- ・海手や山手に位置する歴史文化資源への見学を促すために、歴史文化資源にアクセスする公共交通機関や観光バスも駐車できる駐車場の整備、2次交通機関の検討が求められる。
- ・歴史文化資源の概要や価値を見学者に伝えるために、説明板・案内板の設置が求められる。既に整備されている一部の説明板・案内板については、視認性の向上やデザインの再検討が求められる。
- ・史跡や文化的景観など面的に広がる歴史文化資源については、空間的な位置関係等の理解を促すために、それらを俯瞰して見られる眺望・展望スポットの整備が求められる。

(2) 歴史文化に関する子どもの理解不足

(教育的活用の推進)

- ・泉佐野市において育まれてきた歴史文化、風習を後世に継承していくために、将来の担い手となる泉佐野市の小学生や中学生に郷土教育を進めることが求められる。
- ・泉佐野市の歴史文化を分かりやすく知ってもらうために、泉佐野市独自の学習教材や副読本を作成することが求められる。

(3) 価値・魅力の普及・発信不足

(効果的な普及啓発・情報発信の推進)

- ・地域住民や来訪者に歴史文化資源の持つ歴史や価値を広く知ってもらうために、シンポジウムや講演会、学習講座のみならず、絵本や漫画、公共機関等での PR 事業など様々な手法による普及啓発・情報発信を行うことが求められる。
- ・国際空港のある都市として、インバウンド客をターゲットとした歴史文化資源の普及啓発を行うことが求められる。
- ・泉佐野市の歴史文化を歴史に興味がない人も含めて広く理解してもらうために、泉佐野市の歴史文化を分かりやすく紹介するガイドブックや HP の整備が求められる。

(4) より魅力的な観光・産業振興を推進するうえでの歴史文化資源の活用の必要性

(歴史文化資源を活用した観光振興・産業振興の推進)

- ・観光振興等において一体的な保存・活用を進めるため、関連文化財群として歴史文化資源を結び付けるストーリーの理解につながる情報発信が求められる。
- ・市内全域に点在する歴史文化資源を共通するストーリーで繋ぎ、周遊・体験がしたくなるエリアと連携した着地型観光のプログラムを作成するとともに、それに必要となるルート整備や観光まちづくり等の観光振興に取り組むことが求められる。
- ・MICE 都市として、日本遺産など歴史文化資源が泉佐野市の核となるような施策やインバウンドの受入環境の整備を進めることが求められる。
- ・タオル産業や漁業など泉佐野市の歴史文化と関わりの深い産業と一体となった歴史文化資源の活用を展開することで、歴史文化資源の多様な活用を進めるとともに、地場産業の活性化に繋げることが求められる。
- ・農業や漁業がかつて日本有数であった歴史文化を活かして、地域ブランド化を進める。
- ・歴史文化資源の観光活用を円滑に進めるために、文化財保護課と関係機関等が連携した仕組みづくりが求められる。また、歴史文化資源の観光を含めた多様な活用を進めるために、文化財施設等において wi-fi 環境の整備が求められる。

(5) 公開・活用に関する人材の不足

(公開・活用に関する人材育成)

- ・歴史文化資源の保存・活用に向けては、日本遺産の認定を契機に、行政だけでなく歴史文化資源の所有者や地域住民も巻き込んだ取り組みが重要であることから、多様な局面における協働の仕組みを構築することが求められる。そのためには、文化財や観光振興等の専門家と協働し、歴史文化資源所有者や地域住民、歴史館いずみさの、民間団体、観光部局等庁内他部局、観光資源・施設等との連携を行い、オール泉佐野市で歴史文化資源の活用を推進することが求められる。
- ・泉佐野市の歴史文化や観光ガイド等に関する講習会や研修を行うことで、歴史文化資源を保存・活用する人材を育成することが求められる。
- ・歴史文化資源所有者と地域住民や小・中学校との連携が円滑に進むような仕組みづくりが求められる。その取っ掛かりとして、日本遺産や関連文化財群のストーリーを活かしながら、地域住民や小・中学校に対する出前講座や授業を行い、自分のまちをガイドできるほど歴史文化に詳しい人を育成することが求められる。